

# 実解析第2同演習・演習第9回

2022年12月23日

## 問 A-1

$X = \{1, 2, 3\}$  とする.  $X$  上の関数  $f, g$  を

$$\begin{aligned}f(1) &= g(1) = 1 \\f(2) &= g(2) = 2 \\f(3) &= 3, g(3) = 2\end{aligned}$$

で定める.

(1)  $(X, \mathcal{P}(X))$  上の測度  $\mu$  を

$$\mu(\{1\}) := 1, \mu(\{2\}) = 1, \mu(\{3\}) := 0$$

で定義する. このとき,  $1 \leq p < \infty$  について  $L^p(X, \mathcal{P}(X), \mu)$  の元として  $f = g$  であることを示せ.

(2)  $(X, \mathcal{P}(X))$  上の測度  $\nu$  を

$$\nu(\{1\}) := 1, \nu(\{2\}) = 1, \nu(\{3\}) := 1$$

で定義する. このとき,  $1 \leq p < \infty$  について  $N^p := \{f \in \mathcal{L}^p(X) \mid \|f\|_{L^p} = 0\} = \{0\}$  であることを示せ.

## 問 A-2

関数  $f \in L^p([0, 1])$  ( $1 \leq p < \infty$ ) を

$$f(x) = x$$

と定義するとき,  $\|f\|_{L^p}$  を求めよ.

## 問 A-3

$(X, \mathcal{M}, \mu)$  を測度空間とする. 可測関数  $f : X \rightarrow \mathbb{R}$  の本質的上限とは,

$$\text{ess sup } f := \inf\{\alpha \mid \mu(\{f > \alpha\}) = 0\}$$

で定義される量である.  $\mathcal{L}^\infty(X, \mathcal{M}, \mu) := \{f \mid \text{ess sup } f < \infty\}$  とすると,

$$\|f\|_{L^\infty} := \text{ess sup } f$$

と定めれば,  $p < \infty$  のときの  $L^p$  空間と同様の方法でノルム空間  $L^\infty(X, \mathcal{M}, \mu)$  が得られることを確かめよ.

## 問 B-1

$(X, \mathcal{M}, \mu)$  を有限測度空間とする.

1.  $\mathcal{B} \subset \mathcal{M}$  が  $\sigma$ -algebra のとき,  $L^p(X, \mathcal{B}, \mu)$  は  $L^p(X, \mathcal{M}, \mu)$  の線形部分空間であることを示せ.
2.  $f \in L^2(X, \mathcal{M}, \mu)$  に対し,  $\phi : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  を

$$\phi(t) := \int_X (f(x) - t)^2 d\mu$$

で定めるとき,  $\phi(t)$  を最小にする  $t$  を求めよ.

3.  $f \in L^2(X, \mathcal{M}, \mu)$  に対し,  $g \in L^2(X, \mathcal{B}, \mu)$  で  $\|f - g\|_{L^2}$  が最小となるものを求めよ. (ヒント: 演習第 7 回問 B-2 と同様の方法で  $f$  から  $\mathcal{B}$ -可測関数を構成できる.)

## 問 B-2

$X = \{1, 2, \dots, n\}$  とする.  $\nu$  を  $X$  上の counting measure, すなわち各  $E \in \mathcal{P}(X)$  に対して  $\nu(E) := \#E$  で定義される測度とする. このとき, 以下を示せ.

- (1) 任意の  $x_1, x_2, \dots, x_n \in \mathbb{R}$  と  $1 \leq p < \infty$  について次の不等式が成り立つ.

$$\max_{1 \leq i \leq n} |x_i| \leq \left( \sum_{i=1}^n |x_i|^p \right)^{1/p} \leq n^{1/p} \max_{1 \leq i \leq n} |x_i|.$$

- (2)  $f \in L^\infty(X, \mathcal{P}(X), \nu)$  ならば  $\|f\|_\infty = \max_{1 \leq i \leq n} |f(i)|$  である.
- (3)  $\phi : L^\infty(X, \mathcal{P}(X), \nu) \rightarrow \mathbb{R}^n$  を  $\phi(f) := (f(1), f(2), \dots, f(n))$  と定義すると  $\phi$  は連続な全単射線型写像であり, 逆写像も連続である. ただし,  $\mathbb{R}^n$  には通常の距離から定まる位相を入れる.
- (4) 集合として  $L^p(X, \mathcal{P}(X), \nu) = L^\infty(X, \mathcal{P}(X), \nu)$  である. また恒等写像  $\text{id} : L^p(X, \mathcal{P}(X), \nu) \rightarrow L^\infty(X, \mathcal{P}(X), \nu)$  は連続な全単射線型写像であり, 逆写像も連続である.

以上により,  $1 \leq p \leq \infty$  について  $L^p(X, \mathcal{P}(X), \nu)$  は  $\mathbb{R}^n$  と同一視できることが分かった.